

歯槽濃漏の治療は、  
根気と努力です！

歯槽濃漏はじわじわと進み、歯が抜けるのを待つだけ、と考えているのは危険です。歯槽濃漏の多くは、ちょっとした努力で治ります。治療もせず、歯みがきも自己流で、抜けるにまかせ、といった人がかなり多いのも実情です。

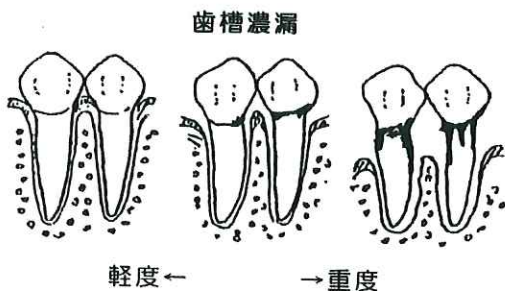


歯槽濃漏の治療・予防は、歯と歯肉の境目の細菌群と歯周組織の力関係の改善をはかることです。一時的にではなく、持続的にです。歯と歯の境目の歯みがきが主要なものとはなりません。食事や生活習慣の見直しも必要になります。これを気長に実践するのは自分自身なのです。歯科医に治してもらうのではなく、自ら治すことへの発想の転換が肝心です。歯科医の役割は、歯槽濃漏の状態を診断し、歯槽濃漏の治療を手助けする立場です。歯科医は、一緒に原因の除去を考えたり、歯みがきだけでは取れない歯石を取ったり、噛み合わせの力のバランスをとったりなどをします。

歯槽濃漏とのつき合いは、歯がある間ずっと続きます。その際の良き相談役、援助役が歯科医や歯科衛生士なのです。

虫歯にしても、歯槽濃漏にしても、細菌が原因です。高齢者では、特に、露出してきた歯根部分が虫歯・歯槽濃漏の危険域です。歯の裏表だけではなく、歯と歯の間も含めて歯の全周が歯ブラシ清掃の対象です。

歯槽濃漏は歯と歯肉の間にある「ポケット」という隙間に住んでいる細菌や、細菌の作った毒素が歯肉に炎症を起こさせ、歯周組織全体に及んでくるものです。歯肉から炎症が進み、歯を支えている骨や歯根膜に進むと、骨は壊され、歯の支えは弱くなり、歯がぐらぐらしてきて、歯に力が入らなくなり、噛めなくなってしまいます。



大臼歯2本のまわりが膿んでおり、ぐらぐらしていて、レントゲンで見ると骨の支えはほとんどない状態の歯槽濃漏が、歯石を取る治療と歯みがきの正しい方法で、ぐらぐらしていた歯のまわりの炎症も落ち着き、歯の動きも止り、口中がすっきりしたケースも症例として数多くあります。要は、根気よく治療を受け、歯みがきを正しく気長に行ない、途中で投げ出さないことです。

\*\*\*お知らせ\*\*\*

入浴は心身ともにリラックスするものですが、食事してすぐ入ったり、入浴後すぐに食事するのは禁物です。せめて30分以上は時間をおくことです。

また、飲酒後の入浴も危険です。心臓病や腎臓病などの病気のある人は、医師の指示を受けて入浴することです。